

物語を自立的に読む子供を育てる国語科学習指導
～異なる解釈から判断・統合する対話活動を通して～
第四学年菊組 国語科学習指導案

指導者 福島 巧大

単 元 読んで考えたことを、友達と伝え合おう「スワンレイクのほとりで」（光村図書）

指導観

- 本学級の子供たちは、これまでに登場人物の言動や情景描写から、気持ちやその変化について、場面の移り変わりとともに想像することができるようになってきている。そこで、自分とは異なる解釈をした友達と対話することで、自分の解釈が広がったり深まったりすることができるようになるこの期に本単元を取り上げる。そして、共通の問いや個人の問いの解決を目指し、自ら他者と話し合うことで、歌の気持ち変化や、渡米後にもった思いや理由について、自分の考えをもつことができるようにする。このことは、物語を自立的に読む子供を育てる上からも意義深い。
- 本単元に関しては、第3学年「モチモチの木」で、言動や様子から登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けて想像し、登場人物について考えたことを友達と交流する学習をしてきている。そこで本単元では、これらの上に立ち、経験したことや、人物との交流したことにより移り変わる登場人物の気持ちを想像し、物語の続きについて考えたことを伝え合うことができるようにする。このことは、第5学年「大造じいさんとがん」で、登場人物の心情の変化に着目し、自分が考えた物語のもつ魅力について友達と伝え合う学習へと発展していく。
- 本単元の指導に当たっては、場面によって移り変わる歌の気持ちの変化について想像することができるようにする。特に、本時指導に当たっては、まず導入段階では、共通の問いから「どうして歌は鉛筆を持って、作文を書けるようになったのか話し合おう」というめあてを掴むことができるようにする。次に、展開前段では、自分の解釈をつくった後、自分と異なる視点で解釈した友達を自ら選び、互いの解釈を交流する。展開後段では、共通の問いや個人の問いについて話し合ったことを基に、共通の問いについて自分の解釈を付加、修正、強化することができるようにする。最後に、終末段階では、学習課題や本時学習を振り返り、次時学習へと見通しをもつことができるようにする。

目標

- 1 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やしたり、「風には、雲をつかまえることはできない」といった情景を表す叙述が、登場人物の気持ちを具体的に表す役割があることを理解したりすることができるようにする。
- 2 登場人物の言動や出来事、人々との交流に着目して、歌の気持ちを想像し、作文に書こうとしているアメリカの経験の中で、歌が一番心に残ったことについて、自分の考えをもち、友達と伝え合うことができるようにする。
- 3 渡米後の歌がもった思いを友達と伝え合うことに関心をもって、歌の気持ちの変化を捉えたり、歌のアメリカでの経験やグレンとの交流に着目したりしながら、意欲的に友達の考えのよさ見付けようとする態度を育てる。

計画（9時間）

- 1 教材文の初発の感想を交流させ、歌の気持ちの変化についての学習課題と学習計画をつかませる。―― 2
- 2 教材文を読ませ、場面の移り変わりとともに変化する歌の気持ちを想像させる。―― 5
 - (1) 作文を書けなかった歌について―― ① (2) アメリカの生活や文化について―― ①
 - (3) グレンとの出会いや交流について―― ② (4) 作文を書けるようになった歌について―― ①
- 3 歌が渡米後にもった思いについて考えをもたせ、交流させる。―― 2

本時 令和7年2月6日（木曜日） 第5校時 4年菊組教室において

- 主眼** 1 歌は、アメリカで見聞きしたことやグレンとの関わりを通して日本とアメリカの文化の違いや自分について新しい発見をしたことで、これからの自分に期待する気持ちをもったことを想像することができるようにする。
- 2 自分と異なる解釈をした友達を自ら選び話し合うことを通して、複数の視点から想像し、作文を書くことができるようになった歌の気持ちの変化について、自分の解釈を付加、修正、強化することができるようにする。

準備 挿絵、叙述カード

過程

段階	学習活動と予想される子供の反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	1 本時に解決する共通の問いから、本時学習のめあてについて話し合う。 【本時の共通の問い】 どうして歌は作文を書くことができるようになったのだろう。 作文を書けるようになったのは、歌の気持ちが変わったからかな。 どうして歌はえんぴつを持って、作文を書けるようになったのか話し合おう。	○本時学習のめあてをつかむことができるように、単元導入時に立てた単元の学習課題や共通の問い、個人の問いを振り返る時間を設定する。
展開	2 作文を書けるようになった歌の気持ちについて話し合う。 (1) 作文を書けるようになったときの歌の気持ちの変化に着目して、自分の解釈をつくる。 ・手が止まってしまう。 ・ぎゅっと、力をこめてにぎった。 初めはグレンに会いたくて寂しい気持ちだったけど、グレンの手を握ったときと同じ「ぎゅっと」という表現が使われているから、グレンと交流した日々を思い出してそれを書きたいという気持ちになったからじゃないかな。 (2) 異なる解釈をした友達と交流し、自分の解釈を見直す。 【文化や生活】 【グレンと出会い】 【グレンとの交流】 自分や日本と違うところを、もっと知りたくなったから。 自分の英語がグレンに初めて伝わって、嬉しかったから。 違いがたくさんあるグレンと仲が深まって嬉しかったから。 歌は、アメリカでの出来事を通して、どのようなことを考えたのでしょう。 日本とは生活や文化が違うアメリカで、自分とは言葉や障害の有無など違いがあるグレンに出会い、アメリカと日本の違いや英語に興味がある自分を新しく発見し、これからもっと英語を勉強していこうと思った。 (3) 個人の問いを解決し、共通の問いについて自分の解釈を再構成する。 歌は、どうしてグレンの手を、にぎったときのように、鉛筆をぎゅっと力をこめてにぎったのだろう。 歌は、どうして作文の続きを書こうと思うようになったのだろう。 グレンに初めて英語が伝わり、心が通じ合ったときの喜びや感動した気持ちを思い出し、グレンともっと仲良くなりたと思ったから。 アメリカの生活や文化、考え方の違いやグレンとの出会い、交流について思い出して、一番心に残ったことを決めたから。 アメリカでの生活やグレンとの出会いを通して、日本とアメリカのちがいや、自分について新しい発見をし、これからの自分に期待する気持ちに変化したから。	○作文を書けるようになったときの歌の気持ちの変化を本文中の叙述を根拠にして想像することができるように、歌の言動や様子、情景から歌の気持ちを想像することを確認する場を設定する。 ○歌の気持ちの変化について自分の解釈を広げることができるように、自分とは異なる解釈をした友達と解釈を交流する場を設定する。 【異なる解釈から判断する対話活動】 ○個人の問いについて、それぞれ自分の解釈をまとめることができるように、同じ問いをもった友達同士や異なる問いをもった友達と話し合いながら、問いを解決する場を設定する。 ○共通の問いについて、自分の解釈を付加、修正、強化し、解釈を深めることができるように、共通の問いや個人の問いについて自分の解釈をまとめたり、友達と解決したりしたことを想起する場を設定する。 【異なる解釈から統合する対話活動】
終末	3 共通の問いや個人の問いを解決していった本時学習を振り返り、次時への見通しをもたせる。 ・歌はこの後、どのような内容を作文に書いていったのかな。 ・みんなだったら、歌の作文の続きをどのように書いたって思うだろう。	○次時の学習へと見通しをもつことができるように、次時の共通の問いや個人の問いを確認したり、新たに疑問に思ったことを個人の問いとして追記したりする時間を設定する。

本単元の構成

配時	学習活動と予想される子供の反応	具体的な支援
45	1 既習の学習を振り返り、初発の感想を交流しながら、学習課題と問いを設定する。 ○ 初発の感想をもち、単元の学習課題を設定する。 【既習の学習】「ごんぎつね」 【題名読み】「スワンレイクのほとり」 場面の移り変わりと一緒に、登場人物のごんの気持ちも変化していったね。 ・「スワンレイク」って何のことなのだろう。 ・ほとりで何か起きるのかな。 ・日本とアメリカで考え方や暮らしが違うことに私も驚いたな。 ・グレンとの出会いは、歌にとって素敵な出会いになったんだね。 ・どうして歌は最後に作文を書けるようになったのだろう。 作文を書くことができなかった歌が、どうして作文を書くことができるようになったのか話し合い、歌の作文の続きを考えよう。	○単元の学習課題を立てることができるよう、「ごんぎつね」において物語の結末について初発の感想から感想が変わった経験を想起させ、場面が移り変わるとともにごんの気持ちも変化していったことを振り返る場を設定する。
45	○ 初発の感想を基に、共通の問いと個人の問いを設定する。 ・歌はどうして作文を書けなかったのかな。 ・アメリカで歌は何が一番心に残ったのかな。 ・どうして歌はグレンの手をぎゅっとにぎりしめたのかな。 ・歌とグレンは仲良くなったのかな。 ・どうして歌は作文を書けなかったのに、書くことができるようになったのかな。 【共通の問い】 ・どうして歌の手は止まってしまったのだろう。 ・どうしてアメリカにいろいろな人が住んでいることに驚いたのだろう。 ・どうして思わず、ぎゅっと、グレンの手を握りしめたのだろう。 ・どうして歌は白鳥を見て、グレンと笑い合ったのだろう。 ・どうして作文を書くことができるようになったのだろう。	○初発の感想から生まれた疑問から共通の問いと個人の問いを設定することができるよう、問いの設定条件に照らし合わせ問いを精選する活動を設定する。
45	2 各場面で起こる出来事やグレンとの交流と結び付けて、歌の気持ちの変化を想像する。 ○ 作文を書けなかった歌の気持ちについて想像する。 【悩んでいる歌】 【懐かしんでいる歌】 【もどかしい歌】 一番心に残っていることを決めることができず、何を書けばいいのか悩んでいるから。 白鳥のような形をした雲を見て、スワンレイクでグレンと過ごした日を思い出しているから。 心の中にある言葉を、うまくつかまえることができないとあるから、書きたくても書けないでいるから。 アメリカでの体験やグレンのことを思い出し、なつかしくなったが、書きたいことが整理できずに、悩んでいる気持ちになった。	○「一年間で心に残ったこと」というテーマの作文に、書きたいことを整理できず悩んでいる歌の気持ちを情景からも想像することができるよう、「ごんぎつね」で情景から人物の気持ちを読み取った経験を想起させる場を設定する。
45	○ アメリカの生活や文化を体験した歌の気持ちを想像する。 【驚いた歌】 【憧れる歌】 【気に入っている歌】 アメリカはいろいろな人種と一緒に暮していることを知って、日本と違って驚いているから。 違いを当たり前として受け入れているアメリカの文化に、うらやましさを感じているから。 違いがあっても人も動物も一緒に暮しているアメリカの生活や文化を気に入ったから。 日本とは違って様々な人種や言語がある中で生活している人々や、様々な種類の動物たちが暮らす森を見て、歌はアメリカの違いが当たり前である文化に感動した気持ちになった。	○違いがあって当たり前というアメリカの文化に感動した歌の気持ちを想像することができるよう、日本とアメリカの人種や言語、外国人の捉え方や森に生きる動物たちの種類の違いについて整理する場を設定する。

45	○ グレンに出会い、英語が通じたときの歌の気持ちを想像する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="217 197 470 241">【嬉しい歌】</td><td data-bbox="470 197 742 241">【安心する歌】</td><td data-bbox="742 197 1015 241">【もっと話したい歌】</td></tr> <tr> <td data-bbox="217 241 470 443">初めての外国人の友達できたことや、自分の英語が通じたことで、嬉しい気持ちになったから。</td><td data-bbox="470 241 742 443">前日から父と一生懸命練習していた英語がグレンに伝わって、安心する気持ちになったから。</td><td data-bbox="742 241 1015 443">自分の英語が伝わり自信が付いて、もっとグレンと英語で話したいという気持ちになったから。</td></tr> </table> 性別も人種も国籍も障害の有無も話す言葉も違うグレンと会うのは緊張していたが、練習した英語が通じて嬉しい気持ちになり、もっとグレンと英語で話したいという気持ちになった。	【嬉しい歌】	【安心する歌】	【もっと話したい歌】	初めての外国人の友達できたことや、自分の英語が通じたことで、嬉しい気持ちになったから。	前日から父と一生懸命練習していた英語がグレンに伝わって、安心する気持ちになったから。	自分の英語が伝わり自信が付いて、もっとグレンと英語で話したいという気持ちになったから。	○歌とグレンが対比的に描かれていることを捉えることができるように、歌とグレンの性別や人種、住んでいる国、言語、障害の有無について比較する場を設定する。
【嬉しい歌】	【安心する歌】	【もっと話したい歌】						
初めての外国人の友達できたことや、自分の英語が通じたことで、嬉しい気持ちになったから。	前日から父と一生懸命練習していた英語がグレンに伝わって、安心する気持ちになったから。	自分の英語が伝わり自信が付いて、もっとグレンと英語で話したいという気持ちになったから。						
45	○ グレンと英語で交流した歌の気持ちを想像する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="217 640 470 685">【嬉しい歌】</td><td data-bbox="470 640 742 685">【楽しい歌】</td><td data-bbox="742 640 1015 685">【仲良くなりたいた歌】</td></tr> <tr> <td data-bbox="217 685 470 909">グレンに英語で野菜の名前を親切に教えてもらって、英語が好きになり、嬉しい気持ちになっているから。</td><td data-bbox="470 685 742 909">同じ野菜なのに呼び方が言葉によって違って、日本語と英語の違いにおもしろさを感じているから。</td><td data-bbox="742 685 1015 909">自分の名前を褒めてくれて、新たな自分のよさに気付かせてくれたグレンとさらに仲を深めたいと思ったから。</td></tr> </table> 英語がグレンに通じた嬉しさや英語のおもしろさを感じたり、グレンに自分の名前を褒めてもらったりして、グレンともっと仲良くなりたいたいという気持ちになった。	【嬉しい歌】	【楽しい歌】	【仲良くなりたいた歌】	グレンに英語で野菜の名前を親切に教えてもらって、英語が好きになり、嬉しい気持ちになっているから。	同じ野菜なのに呼び方が言葉によって違って、日本語と英語の違いにおもしろさを感じているから。	自分の名前を褒めてくれて、新たな自分のよさに気付かせてくれたグレンとさらに仲を深めたいと思ったから。	○グレンと野菜の英語名と和名を互いに紹介しあったことで、同じ野菜でも言語によって名前の言い方が違うことに歌がおもしろさを感じていることを捉えることができるように、「どうして歌は笑顔で『うん、うん』と頷いたのか。」と発問する。
【嬉しい歌】	【楽しい歌】	【仲良くなりたいた歌】						
グレンに英語で野菜の名前を親切に教えてもらって、英語が好きになり、嬉しい気持ちになっているから。	同じ野菜なのに呼び方が言葉によって違って、日本語と英語の違いにおもしろさを感じているから。	自分の名前を褒めてくれて、新たな自分のよさに気付かせてくれたグレンとさらに仲を深めたいと思ったから。						
45 本時	○ 作文をかけるようになった歌の気持ちの変化を想像する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="217 1088 470 1133">【文化や生活】</td><td data-bbox="470 1088 742 1133">【グレンと出会い】</td><td data-bbox="742 1088 1015 1133">【グレンとの交流】</td></tr> <tr> <td data-bbox="217 1133 470 1267">自分や日本と違うところを、もっと知りたくなったから。</td><td data-bbox="470 1133 742 1267">自分の英語がグレンに初めて伝わって、嬉しかったから。</td><td data-bbox="742 1133 1015 1267">違いがたくさんあるグレンと仲が深まって嬉しかったから。</td></tr> </table> 歌は、アメリカでの出来事を通して、どのようなことを考えたのでしょうか。 アメリカと日本の違いを新しく発見し、自分とは言葉や障害の有無など違いがあったり、生活や文化に違いがある場所で暮らしたりしている友達に初めて出会い、これからもっと英語を勉強していこうと思った。 歌は、アメリカでの生活やグレンとの出会いを通して、日本とアメリカのちがいが、自分自身について新しく発見し、これからの自分に期待する気持ちに変化した。	【文化や生活】	【グレンと出会い】	【グレンとの交流】	自分や日本と違うところを、もっと知りたくなったから。	自分の英語がグレンに初めて伝わって、嬉しかったから。	違いがたくさんあるグレンと仲が深まって嬉しかったから。	○歌が英語を勉強して、自分と違いがたくさんあるグレンともっと仲良くなりたいたいという気持ちになったことを捉えることができるように、どの思い出をきっかけに気持ちが変わったのか、物語全体を通して、交流する場を設定する。
【文化や生活】	【グレンと出会い】	【グレンとの交流】						
自分や日本と違うところを、もっと知りたくなったから。	自分の英語がグレンに初めて伝わって、嬉しかったから。	違いがたくさんあるグレンと仲が深まって嬉しかったから。						
90	3 これまでの読みを基に、歌がこれから作文に書こうとしている内容を理由とともに考え、友達と共有し、学習を振り返る。 歌は、グレンと英語を通して話をするのでした体験を作文に書いて、これから英語の勉強をたくさん頑張るんだと思います。なぜなら、グレンのことを遠く離れた場所で暮らしているけれど友達と言っているし、そんなグレンといろんなことを話してみたいと歌は思っているからです。 物語を読んでそれぞれが思う感想や考えは、その人の心に残ったことやその理由によって違うが、それを聞いたり話したりすることで、物語の見方が広がったり深まったりすることが分かった。	○自分が考えたことと、友達が考えたことの違いに気付くことができるように、伝え合う際にどの思い出の観点から考えをつくったのかを示し、自分と友達の考えを比較しながら交流する場を設定する。						